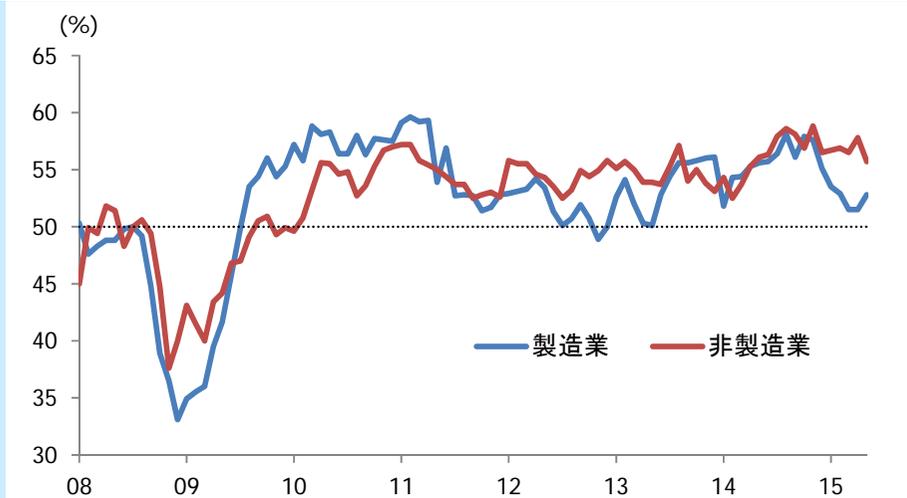


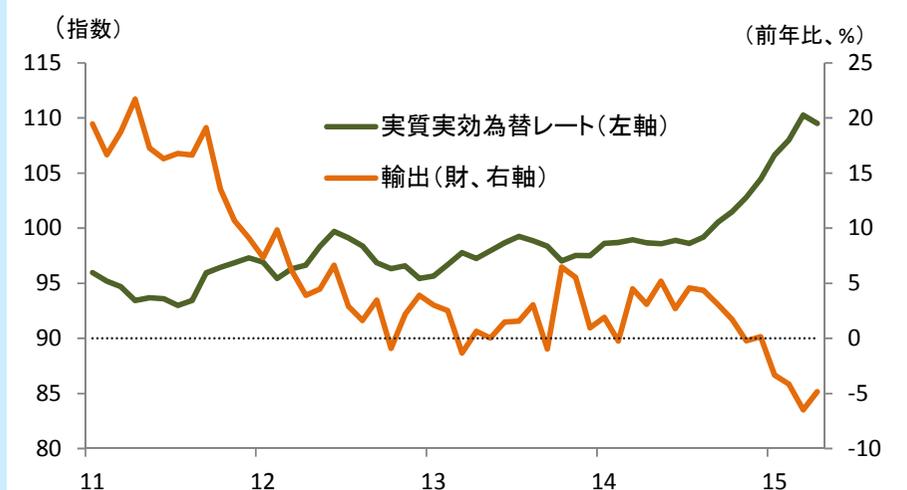
米国：ISM景況指数（2015年5月）

MRI Daily Economic Points
June 5, 2015

図表1 総合指数



図表2 為替レート・輸出（財）



資料：米供給管理協会、国際決済銀行(BIS)

評価ポイント

今回の結果

- 5月のISM製造業景況指数(総合、6/1日公表)は、52.8と前月(51.5)から小幅上昇。14年後半以降、ドル高や西海岸港湾のストライキ、寒波の到来を背景に低下が続いていたが、7ヶ月ぶりに上昇した。
- 項目別にみると、生産(54.5)が小幅低下したほか、輸出(50、総合指数には含まれない)も低迷している。一方、新規受注(55.8)、雇用(51.7)、入荷遅延(50.7)、在庫(51.5)は上昇した。
- 5月のISM非製造業景況指数(総合、6/3日公表)は、55.7と前月(57.8)から低下。ただし、高水準は維持しており、非製造業の拡大・縮小の分岐点である50を2010年2月以降、64ヶ月連続で上回っている。
- 項目別にみると、ビジネス活動(59.5)、新規受注(57.9)、雇用(55.3)、入荷遅延(50.0)など幅広い項目で低下した。50を上回り企業活動が拡大した業種は18業種のうち15業種であったが、鉱業のみ50を下回った。原油安がシェール関連の企業活動を抑制している。

基調判断

- 非製造業では、堅調な国内消費を背景に景況感の改善傾向が続いている。一方、製造業の景況感、西海岸港湾のストライキや寒波の到来による悪影響が剥落して小幅改善したものの、ドル高や海外経済の回復の遅れによる輸出の鈍化が抑制要因となっている。

今後の流れ

- 先行きは、堅調な内需を受け、企業活動は緩やかな拡大が続くとみられる。
- ただし、①金融政策の正常化過程で先行きの金融政策の見方が変化し、長期金利が急激に上昇する可能性や、②原油安によるシェール関連企業の活動鈍化が他産業に悪影響を及ぼす恐れ、③ドル高が企業収益の減少を通じて投資を抑制する可能性には留意が必要である。